

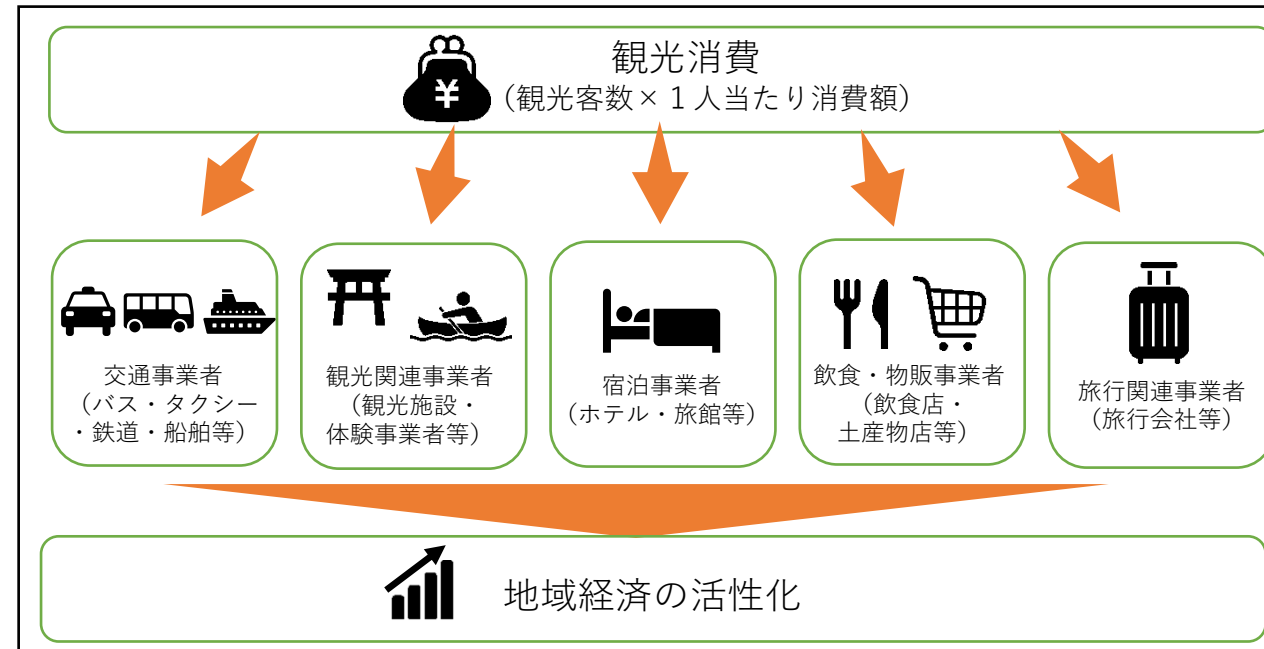
1. 支援する分野

観光分野

2. 支援する地域及び核となる事業者

地 域：県内全域

事業者：宿泊事業者、観光関連事業者（観光施設・体験事業者等）、交通事業者、旅行関連事業者、飲食・物販事業者、クルーズ船社 等



3. 目指す姿（目標）

(1) 現状の整理

- ・外国人延べ宿泊者数はコロナ禍前の水準に戻っていない。また、国際線の運休等が続いている。
- ・コロナ禍前と比較して、観光消費額が低い水準にある。
- ・コロナ禍を経て、団体旅行から個人旅行へのシフトの加速など、旅行需要が変化している。
- ・鹿児島港を中心に県内各地にクルーズ船寄港が増加しているが、経済効果が寄港地周辺にとどまる傾向がある。
- ・コロナ禍を経て、生産性の低さや人材不足といった課題が一層顕在化している。

(2) 目指すべき目標

世界有数の観光地となることを目指し、令和11年までに達成すべき目標を以下のとおり設定する。

- ・付加価値増加額 904億円
(令和6年約1,236億円からの増加額)
- ・経済波及効果 5,400億円
- ・観光消費額 4,100億円

4. 勝ち筋

(1) 基本戦略

観光の「稼ぐ力」の向上に向けて、観光客数の増加を図るとともに、観光客1人当たり消費額の向上を図り、観光消費額を増加させる。

(2) 取組の具体像

- ① 戦略的な誘客の推進
国内外への戦略的な誘客により観光客数の増加を図る。
- ② 高付加価値な観光の推進等
地域資源を活用した高付加価値な観光の推進等により、多様化する観光客のニーズに対応し、観光客1人当たり消費額の向上を図る。
- ③ クルーズ観光の活用
クルーズ船の寄港による観光需要を県内各地に波及させる。
- ④ 人材の確保・育成及び生産性向上
人手不足を解消し、生産性を向上することで、収益力を高める。

5. 政策手段

- ① 国内外への戦略的な誘客の推進
国内誘客キャンペーンや海外メディア等を活用したプロモーション、SNS等を活用した国内外におけるデジタルプロモーション等に取り組む。
- ② 魅力ある癒やしの観光地の形成
にぎわい空間の整備・充実、地域特性を生かした高付加価値な観光コンテンツづくりの支援や外国人観光客の受入環境整備等に取り組む。また、「稼ぐ観光地域づくり」を推進するための組織づくりの支援や観光推進体制の見直しに向けた検討等に取り組む。
- ③ クルーズ観光の推進
クルーズ船の寄港先拡大や寄港地観光ツアーの広域化、県産品供給等に取り組む。
- ④ 人材の確保・育成及びデジタル技術の活用
人材確保・育成や、デジタル技術を活用した省力化・サービス向上を推進する。